

CLC からしだね書店 便り

2025 March

no.51

3



* 今月のご案内 *

- ① 連載「歴史と対話し歴史に学ぶ」第3回
- ② 店長の独り言「じろじろ見るおばちゃん」
- ③ 読書感想本『エビデンスを嫌う人たち』

「地球は平らだ」と信じる人々が得るもの、
それを馬鹿にする社会が失うもの

CLC からしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。ドリンクを片手に、本をお楽しみください。
- ⑤ 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- ⑥ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。



CLC からしだね書店 & カフェ トライアングル
営業時間 11:00-17:00
定休日 日曜日と年末年始（※祝日も営業）
毎月第3木曜日は書店のみ営業

麻止史と対話し歴史に学ぶ

中谷 博幸

連載第三回

『スペインによるインディアス植民地化とキリスト教（下）』



前回に続き、スペインの植民地の問題を扱います。スペインでは他のヨーロッパに先駆けて中南米の植民地化が進められますが、同時に他のヨーロッパの国々とは異なり、その植民地化に対する強烈な批判も出てきました。この批判の内容をラス・カサスとセプールベダの論争を通じて考えます。これは、大国の指導者をはじめ世界中でフェイクニュースを平気で広める人々がいる中、今日の問題でもあります。

森下有(高一):

一六世紀の中南米でスペインの植民者は先住民たちを奴隷化していきました。エスパニョーラ島は、数十年の間に、人口が約三八万人から三万四千人に減少したとか。おじさん、ラス・カサスの伝記(梁田秀藤『ラス・カサス』清水書院)を読みながら、当時の植民地化に関して、二つの問いをたてました。

- ①インディオを奴隷として扱ふことは許されるか。
- ②インディオ征服は肯定されるか。

山田はじめ(三高):

伝記に出てくるハリヤドリド論争が参考になりますね。

有:

一五五〇年にラス・カサスとセプールベダの間で行われた論争ですね。ラス・カサスがスペインの征服を否定したのに対し、当時スペインの高名なアリストテレス学者だったセプールベダは肯定したと。

はじめ:

論争の直接の記録は残っていないようですが、二人の著作から、各々の主張は分かります。ラスカサスは『インディアス史』(長南実訳 岩波文庫)。セプールベダは『第二のデモクラテス』(梁田訳、岩波文庫)。

有:

セプールベダの本を読んだら、また連絡します。

【つばね田時が経過】

有:

だいぶ時間がかかりました。インディオの捉え方が二人の間で全く違うことに驚きました。

セプールベダは、インディオが「文字を使用もしなければ、知りもしない」「ありとあらゆる放埒な行為や怠ましい淫らな生活に身を任せ、少なからず肉を食する傾向にある」「さらに「人間であることを示す痕跡すらほとんど見出せない」と極論しています。一方スペイン人はヨーロッパの他の国々と比較して、最も優れた思慮分別、才能、雅量、節制、人間性、宗教心をもつ、と。

他方ラス・カサスでは、「世界のすべての人間は、たとえいかに野蛮で粗野であろうとも、理性を用いることが可能」である。昔のスペイン人は「野蛮で単純素朴、そしてそれに劣らず粗暴猛猛」であった。インディオが「温和で謙虚、質素で非武装、きわめて素朴で他のいかなる民族よりも我慢強く忍耐に富んでいた」ため、スペイン人は彼らに侮辱と破壊を加えた、と批判しています。

そして驚くべきことに、セプールベダはアリストテレスの理論を使って奴隷制を肯定します。

はじめ:

有ちゃん、頑張りましたね。僕も、アリストテレスが奴隷

情報を集めることも出来たはずですが、自分の理論に都合の良い情報のみを参考にしたという批判は避けられないでしょう。彼の議論には、思慮と慎みから離れて驕慢になった理性の醜態を見ることが出来ると思います。

有:

第一の問題、征服戦争は是非かですが、セプールベダを読んで理解した限りでは、目的は手段を正当化する、という考えが大きく影響していると思います。インディオは偶像崇拜者であり人身犠牲すら行っているのだから、彼らを救いキリスト教徒にするためには、征服戦争は肯定される。

はじめ:

人々の魂を守るために、あるいは神のみ旨を行うために権力を使用することは許されるという考えは、ヨーロッパのキリスト教史上、カトリックとプロテスタントともに、よく見られることです。ルターは少し異なりますが、現在でもそのような人がいますね。

有:

ラス・カサスの伝記を読んで僕が凄いと思ったのは、彼が事実を直視して、自己に非があると分かった時には改めていった心の柔軟性です。彼も最初実質奴隷のエンコミエンダを所有していました。『インディアス史』でそのような自己を断罪しています。キューバ遠征後エンコミエンダ制の非を悟り、彼らを解放し、以後その廃止のために精力を傾けます。人々の魂を救うという目的のための手段としての征服戦

制を肯定していることを知った時はショックでした。中学から高校にかけて学校になじめず、姉さんが大学の読書会の集まりに連れて行ってくれました。嫌だ、と言ったんですが、坐っているだけでいいから、というので、姉さんの横に黙って坐っていました。その時、アリストテレス『政治学』も話題になっていました。彼は戦争による奴隷とは別に、自然による奴隷がいる、と言います。理性と判断力が十分でない者は、生まれつき奴隷であって、魂が身体を支配するのと同様に、彼らは理性的な市民によって支配されることが相応しいし、本人にとっても有益である、と主張します。セプールベダはこの理論を「理性的な」スペイン人と「野蛮な」インディオに当てはめたわけですね。

有:

おじさんは、歴史上最も知性的なアリストテレスや、セプールベダが何故このような暴論を展開したと思いますか。

はじめ:

一つには自分たちやその文化に対する過度な優越感があると思います。これが事実認識の追求を怠らせ、独善に陥ったと思います。ラス・カサスは現地ですぐさにスペイン人たちの残虐行為を見て、それに加担していた自己を含めて彼らの非道に対する憤りをもちます。『インディアス史』で語られていることはほぼ事実だと研究者は考えています。一方、セプールベダは現地に行ったことがなく、情報は征服者たちの報告を元としています。サラマンカ大学のビトリアのように広く



争も明確に否定します。興味深いのは、人身犠牲や偶像崇拜から人々を守るための戦争であったとしても、救われる弱者の数よりもはるかに多く無実の者が殺される、また戦争では罪人と無実の者を区別することはできない、と考えています。インディオは説教を聞く義務はなく、説教を阻止したとしても戦争を仕掛けることはできない。布教は、語る者と聞く者双方の自由を基礎にしている、とも述べています。彼は一時期華奢なインディオの代わりに頑強な肉体の黒人奴隷を許容したことがありますが、一五四七年頃アフリカの黒人奴隷の恐ろしい実態に接してその非を悟り、『インディアス史』で黒人奴隷化の不正を訴えています。死の三年前には、国王をはじめスペインのキリスト教徒はインディオに対して賠償義務を負つとも述べています。

はじめ:

有ちゃんはずいいな。僕が高校の時、姉さんから教えて貰ったけれど、そこまでは分からなかった。

有..

母から聞いたんですが、おじさんは古代ギリシアと近代ヨーロッパについて、興味深い共通性があると考えているとか。古代ギリシアは、ポリス（都市国家）共同体内の市民間では法・言語と理性による自由を主張したけれども、家共同体では思慮と慎みから離れた驕慢な理性によって奴隷制を肯定した。古代ではギリシア世界に限られていたこの自由と暴力的支配の二重性が、大航海時代に世界に拡大していく。ヨーロッパ内部では、革命や市民階級の成長を経て、法・言語と理性による自由を市民社会の中心に据えていく。他方、他の地域に対しては、暴力で植民地化を進めていく。スペインはその走りだと。母は興味深そうに言っていました。

はじめ:

それは姉さん好みの大風呂敷だからです。ところで、明日の夏休みから姉さんと一緒にドイツを旅行するんですね。楽しんできてください。国際法的観点からインディオ問題を考えたビトリアについては、また別の機会にしましょう。



中谷博幸（なかとにひろゆき）

香川大学名誉教授。主な研究対象はヨーロッパ文化史、特にドイツ近世キリスト教文化。

店長の独り言



おばちゃん
見る
じろじろ



おばちゃん



「おいおい、何か起きたんや?と
思っ見てはるやんけ。もうええから、立
てよ」

へらへら笑いの男の子が、相変わらずへ
らへら笑いながらゆっくり立ち上がる。

私は、もう一度、3人の顔をじろじろ見る。

「大丈夫?」と、へらへらの男の子に尋ねる。

「大丈夫です」と、へらへらをやめて、応
えてくれた。ちょっとほっとする。

「ほんとに?」と、今度はこやにやの二人
に尋ねる。

「ほんとです」と言いながら、こやにや。

「そうなん?ほんとやね?」

もう一回、3人の顔を、一人ずつ、じろ
じろ見る。顔、覚えたしね、しっかり見て
たからね。

そして立ち去るおばちゃんの私。

いやあ、私、ふだんはこんな不躰なじろ
じろ見をするおばちゃんではないんです。
そう、気の弱いおばちゃんなんです、いつ
もは、..知らんけど。

せつかくの映画の余韻が、吹っ飛んだの
は残念。

神様、あのへらへらの男の子が、どうか
へらへらをやめることができますように。

そこそこ人通りがある関西ローカル
駅前通りの、明るい昼下がり。

久しぶりにじんわりくる映画を観
て、その余韻に浸りながら気分良く歩いて
いた私は、突然、気色悪い光景に出くわした。
20才くらいの若い男の子が、道端で四つん
這い。そして、それを見下ろすかのように
して突立つ、にやにや笑いの男の子二人。
その二人を上目遣いに見上げる四つん這い
の男の子は、へらへら笑っている。

にやにやとへらへら。

んん?なに?どういうこと?

おばちゃん、頭の中に「ブーツ、ブーツ、
ブーツ」とアラームが鳴り響く。こんな時、
どうする?そうや、じろじろ見よう。

目をまん丸にして、「この驚くべき光景を、
全体的に、客観的に捉えています」というよ
うに、じろじろ見る。

それから、四つん這いの男の子を、「あん
た、しっかりしい!」という気持ちを込めて、
じろじろ見る。

次に、にやにや笑いの男の子二人を、人
間じゃないものに遭遇した時のような、あ
り得ないものを見てしまった時のような顔
をして、じろじろ見る。

それを2回繰り返したところで、にやに
やの男の子の一人が、にやにや笑いを私に
向けながら、四つん這いの男の子に言った。





読書感想本

「地球は平らだ」と信じる人々が得るもの、それを馬鹿にする社会が失うもの

それを馬鹿にする社会が失うもの

『エビデンスを嫌う人たち』

リー・マッキンタイア 著 西尾義人 訳 (国書刊行会 定)

価 2,640円 (本体価格2,400円)

Evidence



一、「地球は平らだ」と信じる人々

地球平面説をご存じですか？地球平面説（フラットアース）とは、文字通り、地球が球体ではなく平ら（フラット）だとする信念です。フラットアースと呼ばれるその信奉者たちによると、私たちは地球が球体であるとする誤った世界観を子どもたちから教え込まれ、真実はずっと隠されてきたのだそうです。彼らは、宇宙から撮影された写真はフェイクだし、アポロ十一号の月面着陸もなかったし、それらはすべてNASAによって仕組まれたのだと考えます。つまり一種の陰謀論なのですが、その内容があまりにも突飛であるために、他の種類の陰謀論者たちからさえ馬鹿にされているそうです。日本ではまだまだあまり馴染みのないこの地球平面説ですが、YouTubeという市場調査サイトが2018年にアメリカで行った調査による

と、調査対象者の2%が地球は平面だと確信していると答えました。¹フラットアースのイベントが各地で開催されるなど、アメリカでは一定の人気を獲得しているようです。

リー・マッキンタイア『エビデンスを嫌う人たち』は、フラットアースなどの科学否定論者や陰謀論者の考えを変えるにはどうすればいいかという問題を探求しています。著者によると、科学的な通説を否定して突飛な説を唱える人々に対して取る態度としては、馬鹿にしたり無視したりするのは最悪の選択肢です。そうした主張を一部のおかしな人たちが信じているものだと見下して放っておくと、それらの主張はどんどん拡散していき、無視できない程の勢力を持つようになります。地球平面説など、一見無害な説であっても、そ

の背後にある科学否定的な考え方が力を得ると、コロナウイルス否定や温暖化否定といった、より有害な科学否定論が広まってしまっています。

そこで著者が採る方法は、証拠をつきつけて論破するようなスタイルではなく、否定論者を一人の人間として尊重し、相手の話に耳を傾けることで信頼関係を築き、そのうえで客観的な証拠や疑問を投げかけることで、否定論者自身が変化するように働きかけるといふものです。否定論者がどれだけ明らかな反証を示されても自説を曲げないのは、そもそも説得してくる相手を信頼していないからです。確かに、「この頭の悪い奴の馬鹿な考えを変えてやろう」と上から自線で挑んでくる敵対的な相手の話を聞き入れたいと思うはずがありません。したがって、彼らの考えを変えるには、まず尊敬に基づき信頼関係を築くことが必要なのです。

二、「バックファイア効果」

自分の信念に反する証拠を示されたり説得されたりすると、かえって自説に対するこだわりを強める現象を、「バックファイア効果」と言います。Backfireとは、「裏目に出る」という意味です。つまり、相手の意見を変えようと意気込むほど、意図に反して相手はかたくなになってしまつたのです。この「バックファイア効果」が生じるのは

「何かを信じる」ということには何らかの利益が伴ったからです。

例えば、喫煙者にとって、「喫煙に健康へのリスクはない」と信じていることには明らかなメリットがあります。そう信じることで、禁煙の努力をしなくて済みますし、タバコを吸いながら罪悪感を持つ必要もなくなります。このような、「喫煙無リスク説」を信じることで得をする人にとって、それを否定するデータや研究は受け入れがたいものとなります。反対に、長生きしている喫煙者の存在をことさらに強調したり、喫煙の害を否定する医者意見を持ち出したりして自説を守ることには十分な動機があります。²このように、人は自分の信念だけでなく、それを信じて得られるメリットを守るために、偏った見方をすることがあります。これが「バックファイア効果」が生じる理由です。

三、傷ついたフラットアースerたち

では、地球平面説を支持することのメリットは何なのでしょう。著者は、「フラットアース国際会議」に潜入し、彼らとの対話を試みました。会議は熱狂的・祝祭的な雰囲気包まれていました。初対面の人たちが、まるで昔からの友人同士のように挨拶をかわし、悪魔の手先であるNASAの陰謀を語り合う。講演者が「私は恥ずかしくなんかない」と唱えると、聴衆は熱烈的な拍手でそれを迎える。「恥

ずかしくなんかない」！なぜなら、自分たちだけが世界の真実に目覚めたのだから。どうやらこのあたりに、「地球平面説を支持することのメリット」がありそうです。

フラットアーサーたちとの会話を重ねる中で、著者は、会議に参加していたある女性から深い印象を受けます。その女性は、「人生の危機」がおとずれ、夫と離婚し、「なにもかも信じられなくなってしまった」時に観たフラットアースの動画がきっかけで、地球平面説を信じるようになったと言います。

自分の人生に意味はあるのか？この先になかを信用できる日は来るのだろうか？そんな暗黒の時代に見たのがフラットアースの動画だった。彼女は最初、その誤りを説明しようとしたが、結局そうはならず、反対に取り込まれてしまった。彼女は、徹底管理された教育のせいとはいえ、それまで球体主義（グローバリズム）を二度も疑わなかった自分を恥じた。(50頁)

この女性の話を聞いた著者は、そこにフラットアーサーの多くに共通する要素を見出します。

思い返してみれば、その目話を聞いた他の参加者のなかにも、同

四、ともに迷いに帰る

傷ついたフラットアーサーたちは、自分たちを傷つけた社会が独占している「常識」や「科学」を信じられなくなり、だから彼らは騙されているのは世間の方だと主張することで、「常識」を取り戻し、自分たちは科学者よりも科学的であると信じることで、「科学」を取り戻そうとするのです。しかし、荒唐無稽な「常識」や「科学」を唱えることで、彼らはますます世間から笑われるにされ、つまはじきにやられてしまいます。そうして孤立が深まる、彼らの中で、世間への不信はますます大きく、地球立平面説への確信はますます固くなっていきます。まさに悪循環です。

そうであれば、フラットアーサーたちと対話をするためにまず必要なのは、対話の相手が自分たちの敵ではないことを理解してもらうことでしょうか。上から目線で頭ごなしに否定するような態度をとると、彼らはますます信念の固い殻に閉じこもってしまいます。対等な立場で尊敬をもって話を聞き、真剣にそれを検討する。そうすれば、彼らも「隠微な力から真実を守らなければならない」という意識から解放され変化へと開かれていくかもしれません。

カルトからの脱会支援活動を行っている瓜生崇氏は、自らの脱会経験を踏まえ、信者と接するときの注意点を以下のように述べています。

大事な点なので何度も言いますが、必要なのは私たちがちゃんと迷っ

じように人生で経験したトラウマ的な出来事を語っていた人がいた。そして、その出来事が起きた時期は、彼らがフラットアースを信じるようになった時期と一致していた。多くの人はそれが9・11だったと言い、また個人的な悲劇がきっかけだったと教えてくれた人もいた。いずれにせよ、ますなんらかの悲惨な出来事があり、それが原因で彼らはあの高齢女性と同じ状態に追いやられることになった。なにもかも信じられなくなり、世界のありとあらゆるものについて疑問を感じるようになったのだ。(52・53頁)

フラットアーサーたちは決して「頭の悪い」人たちでも、「馬鹿」でもありませんでした。ただ彼らの多くは、人生のある時期に、それまで当たり前だと思ってきた幸福な日常を信じられなくなるような体験をしていました。そんな時に、全く異なった価値観で世界を捉え直し、人生を生きなおすことを可能にするような別の世界観に出会い、それに惹かれていったのです。だとすれば、何もかも信じられなくなるような深刻な人生の危機が訪れたとき、私たちは誰でも自分なりの「フラットアース」を信じてしまう可能性があるのではないのでしょうか。フラットアースを信じれば、地球が丸かったころの理不尽な苦しみは、すべて仕組まれた陰謀、フェイクになるのですから。

てゆらぐことなのだ。真剣に聞いてみれば相手も真剣に話してくれる。理解したいという思いで聞けば理解してもらおうと思つて向き合ってくれる。自分が当たり前を受け入れていた人生観が、揺らぐられるくらいに向き合わなければ対話は成立しない。それはカルトの論理にどちらが立つということではない。「真理」を求めずにはおれない人間の思いを理解するということだ。そうして私たちがゆらぐことで、ようやく相手もゆらぐ。信者は自分の言葉が私たちをゆるがせていると気づいたときに、私たちの存在によってゆらぐことができる。論破して気づかせるのではなく信者本人がゆらげるための土台になるのが私たちの役目である。あなたの目の前の信者を洗脳されたロボットとして扱つてはななく悩んで迷ってきた一人の人間として信頼することだ。瓜生崇「なぜ人はカルトに惹かれるのか」法蔵館、179頁

このような態度で人と接するとき、その相手は、人間は間違っ存在であること、そしてそれは決して悪いことではなく、その都度修正すればいいのだということに気づくでしょう。逆説的に聞こえるかもしれませんが、「間違つた考えを持ってもいいのだ」と心から思えた時、人はそれを手放すことができるようになるのです。

逆に、「自分は間違つてはいけない」、「間違つはうがえないのだ」と信じ込んでいると、間違いを修正する新たな情報や証拠から目を背

け、結果的に間違った信念を捨てることができなくなりします。「もう騙されないぞ」という疑いや不安、「自分たちだけが真実を握っているのだ」という確信が、自分たちに建設的な疑いの目を向けることを難しくするのです。

実は、こうした独善的な姿勢は、科学否定論者や陰謀論者を論破して黙らせようとする人々にも見られます。YouTube に見がっているフラットアースのドキュメンタリー動画のコメント欄を見ると、そのほとんどが嘲笑的なものです。誰かを嘲笑することで自分の正しさを確かめ、「自分はこいつら馬鹿とは違う」と安心する。立場こそ異なりますが、陰謀論者や科学否定論者とやっていることは同じです。

先ほどの瓜生氏は、カルトの信者を脱会させる側の自信を促して以下のように述べています。

しかしそれでも、私はここで正しさと間違っている線を、カルトの間に引くことにしても、その中間で迷い続けながら支障することが、自分のやり方だと思っているのだ。というのはカルトは「真理を實踐する私たちは常に正しく、反対する人々は邪悪でレベルの低い人間」という論理で「敬と味方」「善と悪」「正と邪」を明確に分けて考える。自らの正しさに依存して、その正しさを

疑わないのが「カルト」の根本的な問題性であるなら、私たちが同じ論理で自分たちを「善であり正義である」と思い、カルトを絶対悪であり、虚偽だと確信を持って脱会支援することは、結局彼らのやっていることの、あわせ鏡に過ぎないのではないだろうか。『なぜ人はカルトに惹かれるのか』161頁

その上で「脱会」ということの意味を、次のように再定義しています。

脱会は迷っている信者を正しさに引き戻すことではない。正しさに依存して真実を抱きしめて生きていく信者が、それを捨てて迷いに帰ることが脱会である。信者は迷い続けて生きることで怖いから脱会できないのだ。だから私たちが送るメッセージは「正しいのはあなただ」ではなく「迷ってきい」である。迷っている人は大事であり、迷っても生きていけると言いつけるのだ。そのためには信者の言葉に共感し、間違いないと思っていたはず側の正しさがゆらぐことが何より大切なのだ。『なぜ人はカルトに惹かれるのか』190-191頁

「迷いに帰ることが脱会」。この言葉は、陰謀論や科学否定について

向き合つかという本書のテーマに重要な示唆を与えてくれます。なぜなら、科学とは、客観的な証拠に基づきつつ妥当な説を導き出し、新たな情報が得られたらその都度理論を修正していくという、迷いながら進む地道な営みだからです。だとすれば、陰謀論や科学否定の克服は、不確かさを受け入れて迷いの世界に帰るという、「脱会」に似たプロセスをたどるのかもしれない。そしてそのプロセスには、彼らの手を取って、ともに迷いの世界に帰る誰かの存在が不可欠なのです。

五、嘲笑が損なうもの

生きていくうえで、迷いはつきものです。今まで当たり前に入れていたことに疑いの目を向けさせるような出来事はいつでも起こります。確信は常に暫定的なものでしかありません。それは科学も同じです。前言撤回の可能性は常にあります。しかし絶対的でないということは、信用に値しないということではありません。むしろ絶対的でないということをわきまえて、間違いが見つかったらすすんで修正するという科学の性格が、その信頼性を保証しているのです。著者は言います。

私はずっと以前から、不確実性を科学の「弱み」ではなく「強み」として受け入れることが、科学否定に對抗する大志を達成するには必要不可欠だと考えてきた。本音は知らないにもかかわらず、

科学者が常に答えを知っているふりをするのであれば、否定論者が科学に疑念をもち、信頼しなくなるのも不思議ではない。[...]「自分の信頼するものが相手に強いとほめてあげない。信頼は謙遜で隠し事をしない」と、その相手の話を聞くことが獲得するものなのだ。③43頁 本字原文

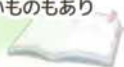
科学否定的な態度が広がることの悪影響を考慮すれば、フラットアーサーをはじめとする科学否定論者や陰謀論者の隠れた動機を暴き、積極的に反論することが重要であることに疑いはありません。しかし同時に、フラットアーサーを馬鹿にし、のけ者にするだけで、彼らからの社会と科学への信頼が失われてしまふことの深刻さにも目を向ける必要があります。もしかすると、科学への信頼を損ない、科学否定を生み出しているのは、科学否定論者だけではなく、彼らを馬鹿にする人ひともあるかもしれないのですから。【書信員G】

後注

1 <https://today.yougov.com/society/articles/20510-most-flat-earth-earthers-consider-themselves-religious>
2 ちなみに、1960年代にアメリカのタバコ産業によって行われた、タバコの健康被害を否定するキャンペーンでとられた手法が、石油会社による気候変動否定などの他の科学否定キャンペーンでも利用されたそうです。(12頁)

古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただくとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。)



【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本 (多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし (料理、健康、経済等) にかかわる本
- 5 小説 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みのCD・DVD・月刊誌・週刊誌、自分史・教会の記念誌などは受け付けておりません

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

増村八千代様、岡本愛様、大津清一郎様、青木理恵子様、久野洋子様、匿名様様 (順不同)

2月の古書の収益は 69,988 円でした。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】
献本くださった方のお名前を書店便りにご紹介させていただきたいと思ひます。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆三寒四温と言いますが、寒さと暑さの温度差が激し過ぎて、身体がついていけない2月、3月です。
◆書店近くに小野小町が暮らした隋心院があり、その梅園の花もそろそろ咲きそうです。隋心院では毎年3月末に「はねず踊り」というのをやっていて、てっきり「ぴょんぴょんはねてはいけないう踊り」のことかと思っていたのですが、まったくもってお恥ずかしい勘違いでした。「はねず」とは、うす紅色を指す日本の古語だそうです。隋心院に咲く紅梅は、古くから「朱華(はねず)色」として親しまれてきたこととす。「はねず色」を楽しむことができる平和を大事にしたいと思ひます。◆一方、クライナのゼレンスキー大統領とアメリカのトランプ大統領の会談を見ながらため息。ウクライナで徴兵逃れをしていた犬の散歩中の男性が、いきなり捕えられて車に押し込まれる映像も…。置いてけぼりにされおろおろする犬…。犬が安心して散歩できる平和を切に望みます。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援B型事業所からしだねワークス
CLCからしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216

京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

書店電話番号

075-574-1001 FAX 075-574-0025

書店メール

clc@karashidane.or.jp



CLCからしだね書店便りのバックナンバーはこちらから